

# 事業の状況

## 金融経済環境

当中間期におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響により、企業活動や個人消費が停滞するとともに雇用環境も弱い動きが見られる等、総じて厳しい状況が続きました。

当行の主要基盤である北部九州の経済につきましても、同感染症の影響により雇用・所得環境を中心に足もと弱い動きとなっております。

金融業界につきましては、マイナス金利政策が継続する資金運用環境下、企業向け貸出や個人ローンマーケットにおいて、金利は極めて低水準で推移しています。引続き日米欧の金融緩和政策や、世界的な新型コロナウイルス感染症が及ぼす影響等について留意する必要があります。

## 2020年度中間期の業績等

このような経済情勢の中で、グループ役員一同総力をあげて業績の一層の進展と経営の効率化に努めてまいりました。2020年度中間期の業績は次のとおりです。

### ◆預金、貸出金等

当行グループの財政状態につきましては、当中間連結会計期間末の譲渡性預金を含めた預金等は前中間期末比で2,781億円増加、前期末比では1,708億円増加の2兆5,541億円となり、総貸出金残高は前中間期末比で2,039億円増加、前期末比で1,906億円増加の1兆9,556億円となりました。

有価証券につきましては、当中間連結会計期間末残高は前中間期末比で473億円増加、前期末比では226億円増加の5,438億円となりました。

### ◆損益状況

当中間連結会計期間の連結経営成績につきまして、経常収益は、貸出金利息や役務収益が増加したことに加え、その他経常収益の増加等により、前年同期比2億66百万円増加の207億85百万円となりました。

経常費用は、外国為替売買損が減少したことに伴いその他業務費用が減少したことや、営業経費の減少等により、前年同期比2億47百万円減少し184億44百万円となりました。

この結果、経常利益は、前年同期比5億14百万円増加し23億41百万円となりました。

また、親会社株主に帰属する中間純利益は、前年同期比2億53百万円増加し13億29百万円となりました。

### ◆当行単体の業績

当行単体の業績につきましては、経常収益で前年同期比2億30百万円増加の169億71百万円、経常利益で前年同期比6億8百万円増加の23億22百万円、中間純利益で前年同期比3億38百万円増加の14億43百万円となりました。

当行単体の財政状態につきましては、当中間会計期間末の譲渡性預金を含めた預金等は前中間期末比で2,784億円増加、前期末比では1,710億円増加の2兆5,588億円となり、総貸出金残高は前中間期末比で2,037億円増加、前期末比では1,905億円増加の1兆9,646億円となりました。

有価証券につきましては、前中間期末比で473億円増加、前期末比では226億円増加の5,508億円となりました。